

課題への挑戦及び本来の使命へ立ち返る変革と改善 —新時代における中国の档案馆の活動—

丁勇

中国国家档案局

アーキビストの皆さま。

21世紀以降、「モノのインターネット」、「クラウド・コンピューティング」、「ビッグデータ」、「人工知能」、「機械学習・深層学習」などにおける科学技術の出現と広範な応用により、我々が暮らす現実世界と、仮想デジタル世界がつながり、その融合が加速しつつある。また、公開と共有が人々の社会において共通の認識となってきた。社会のデジタル化、ネットワーク化、及びスマートサービスが近い将来に一般化することが予想される。情報技術によってもたらされたこの大変革の時代において、アーカイブズ機関における情報面での進展の流れは避けることも後戻りすることもできない。情報化時代における変革と改善は、アーカイブズ機関及びアーキビストが直面する中心的課題となった。本会議のテーマは、「アーカイブズのこれから—膨張する多様な記録にどう向き合うか」であり、変化の時代におけるアーキビストの仕事について議論する上で有益な機会を提供している。この有意義な議論と交流を通して、お互いから学び、ともに発展していくことが期待できる。中国の档案馆が近年どのように情報化時代の課題に対応してきたか、本会議のテーマに沿う形で簡単に紹介する。

1. 変化の時代における課題と好機

中国の档案馆は、あらゆる種類の重要なアーカイブズ資料の永久保存の拠点及びアーカイブズ資料や歴史資料の科学的研究と利用の中心としての役割を長きにわたり担っており、中国におけるアーカイブズにかかる取組みの中核であると認識されている。経済と社会が発展する中、アーカイブズ機関は、資料の収集、整理、保護、利用を通して、歴史の記録、文明の継承、社会への貢献を行い、市民への便益を図る役割を担っている。

紙媒体によるアーカイブズ資料が中心であったかつての時代は、その膨大な量と保存の難しさのために、組織や機関が資料を档案馆に移管する際、また個人が保管をうつす際に、組織や機関、個人の主観的意図が介入するのが一般的であった。法律に基づく資料の受入れを通して、社会全体にとって重要なアーカイブズ資源の専属的所有者としての档案馆が形成された。アーカイブズ資源の専属的所有及び資料管理におけるアーキビストの専門性により、档案馆のイメージとアーキビストの社会的価値に対する認知が国民の間で確立した。今日、主な媒体がデータと情報になったデジタル時代においては、記録媒体の変化とともにアーカイブズ資料の作成と利用の方法はより多様化してきている。特に、情報化を国家的発展戦略として位置づけ、世界最大

のインターネット利用者数と世界第二の規模の情報産業を擁する中国では、档案馆の活動は情報化によりもたらされたとてつもなく大きな変化に直面しており、これらはまず、档案馆の位置付けとアーキビストのアイデンティティへの影響という形で現れている。とりわけ、資料の受入れと保管に関しては、デジタル技術の普及により、紙媒体資料を档案馆に移管した後も電子的に複製した資料を組織や機関、また個人が保持するケースは多い。档案馆は、アーカイブズ資料の専属的所有者ではなくなったのである。それと同時に、大量の電子記録及び電子データへの対応を迫られている档案馆にとって、所蔵資料が完全性を保ち、その保存における安全性と信頼性を確保することは容易ではない。アーカイブズ資料の展開と利用の面においては、より多くのアーカイブズ情報が作成の時点で公開・共有されるようになった今、従来の資料の利用の仕方に固執する档案馆は、社会の公共サービス提供システムにおいて徐々に衰退してきている。

電子記録及び電子データの目ざましい伸び率に直面し、従来の作業形態のままの档案馆と従来の専門知識体系に依存するアーキビストは、この状況に対処できていない。しかし、これらは課題であると同時に好機でもある。情報化の波は、档案馆の機能とアーキビストの専門性を取り巻く環境を大きく変えた。これらすべての側面を総合的に考えた場合、我々は積極的に変化を求める勇気だけでなく、職務の本来の使命に徹する決意を持つ必要がある。

2. 変化の時代におけるアーキビストの活動

このように変化し続ける時代においては、より多くのアーカイブズ資源が電子形態やネットワーク上で存在し、流通する。そのため、アーカイブズ資料利用に関する国民の需要として、よりスマートな利用形態やより多様な選択肢を求める傾向が顕著になってきている。档案馆は、外部からの要求であろうと主体的な変化であろうと、档案馆の業務を、従来の「収集、管理、利用」から、現代的なアーカイブズ情報資源管理に徐々に転換していくことが必要であると考えられる。変化を積極的に受け入れることで、情報化時代の国家の現代的な管理における档案馆の位置を見極め、変化する社会の需要に適合する立ち位置を特定できる。これに向けて、中国国家档案局は近年、一連の対策を実施してきた。

(1) 档案馆に対する資源構築の強化継続の奨励

中国では、アーカイブズ資源の構築に対する制度的保障を提供するため、アーカイブズ資料の整理と収集に関する一連の行政法及び規則を發布しており、これには「全等級の档案馆における収集範囲に関する規則」だけでなく、档案馆の作成初期段階に関する法令として「機関文書とアーカイブズ資料の整理範囲及び保存期限」及び「企業記録と同記録資料の整理範囲及び保存期限」が含まれている。

2018 年末までに、中国の全等級の総合档案馆では 6 億 5 千万冊のアーカイブズ資料が収集され、これは 2014 年末に対して 25% の増加である。より重要なのは、档案馆のアーカイブズ資源

構造の効率化も継続的に進んでいることである。また、国民生活に関する特定記録資料の点数も大きく増加した。多くの市レベル及び県レベルの档案馆では、特定記録資料の割合は全コレクションの40%以上に達し、一部では70%に達した。これらには主に、婚姻、社会保険、並びに土地及び林地証明に関する記録資料が含まれる。地域経済や社会発展の状況を反映して、重慶市の移民アーカイブズ・データセンターや蘇州市の産業商業アーカイブズ管理センターなど、一部の档案馆では特定記録資料用にデータセンターを設置した。これらの档案馆が保持する特定記録資料の点数は100万件を超える。その一方、電子フォーマットで保存されるアーカイブズ資料の点数も飛躍的に増加した。

「保存用及びアクセス増加のための電子化」戦略の実施により、第一歴史档案馆（主に明朝と清朝のアーカイブズ資料の保存）及び第二歴史档案馆（主に中華民国政府時代のアーカイブズ資料の保存）でのデジタル化で大きな成果が出ている。現在、両档案馆では重要な資料のデジタル化を積極的に進めている。また、副省級市以上の档案馆において、全コレクションに占めるデジタル化済み資料の割合も大きく増加した。

(2) シングル・セットでの電子記録管理に向けた試験的事業の促進

最近では、電子ファイルの保存、移管、及び受入れにおける作業を着実に促進するために、電子記録管理に関する標準の策定に着手した。「文書の電子的メタデータ計画」（2009）、「電子記録の移管・受入れ方法」（2012）、「電子記録管理の基本条件」（2014）、「電子文書の保存管理に関する暫定処置」（2018）、「電子記録管理システムの基本機能規定」（2018）を始めとする、電子文書の収集と整理並びに電子記録の移管、受入れ、保管、保存、及び利用を網羅する数十にも上る規定及び技術標準が策定されてきた。

2012年には、電子記録の移管、受入れ、及び長期保存システムの構築に関する試験的事業を上海市、福建省、重慶市、青島市、杭州市、及び広州市の6つの省と市で開始した。事業により既に、電子記録をオンラインで受け入れる機能が数多くの档案馆に備わった。2018年には、電子文書の整理と管理のためのシングル・セット・システムの試験的事業が上海自由貿易区で開始された。現在、「まず標準を策定し、試験事業を段階的に推進し、リスクを抑制する」という原則に従って、アーカイブズ管理の「ダブル・セット」から「シングル・セット」への移行を全国で徐々に進めている。

(3) 所蔵資料の利用を積極的に増進させるための档案馆への指導。

2016年以来、中国では歴史的アーカイブズ資料の保護と利用の増進のための基本計画を発表してきた。中央財政ファンドの支援を受け、歴史的アーカイブズ資料の保護と利用増加のために、全等級の総合档案馆への支援に年間2億元近くを投じている。具体的な実施プロセスにおいては、アーカイブズ資料の利用を最優先課題としている。特にトピックの提案や全等級におけ

る総合档案馆に対する指導によって、アーカイブズ資源の利用を世の中の関心事により強く結びつけることで、政府の活動、国民のニーズ、時代の鼓動などを反映した資料の利用を目指している。この3年間、利用における成果が数多く生み出されてきており、これには歴史資料の編さんシリーズ、資料に関する研究モノグラフや一般書、資料への関心を高めるため、重要な節目に開催された特別展などが含まれる。また、歴史的アーカイブズ資料に基づくマイクロフィルムも作成され、大手の映画やテレビ関連ウェブサイトで公開されて高い評価を得た。利用の増進に向けた精力的な取組の結果、変化のない古びた記録資料が鮮明で有益な情報に変わり、档案馆は歴史や文化に加えて地域の文化の本質を効果的に展示する場所になった。今日の中国では、社会資源の全ての様相を統合し、産業や地域の制約を乗り越え、あらゆるタイプの人々と協力するために自らのコレクションを使用することをより多くの档案馆が学んでおり、これを可能にしたのは多様化した媒体フォーマットである。アーカイブズ資料の利用の幅と範囲が拡大され、人々の精神生活と文化的生活のニーズに応えている。また、档案馆の活動の真の価値と社会的影響力がより高まったと考えている。

(4) 地域間アーカイブズ利用プラットフォームの構築

中国政府は近年、政府サービスへのウェブサイト経由でのアクセスの強化を積極的に推し進めている。これにより、対面での対応を必要とする種類の民生サービスなども、一カ所に一度出向くだけで済み、市民や企業の負担の軽減につながり人々の生活を向上させている。最近の档案馆機構の大幅な改善及び情報環境構築への継続的な投資により、档案馆はこの改革における立役者となった。例えば、上海にある全等級の総合档案馆では、民生記録資源の共有と構築を促進し、市内の全てのサービス窓口で民生記録の取り扱いを可能にし、「インターネット+民生記録簡便サービス」を促進している。現在、上海の民生記録はウェブサイトから取得できる。インターネットで取得できる民生記録は15種類あり、これには婚姻届、国際結婚、退役証明、独生子証明、学生証明書などが含まれる。取得可能な記録の種類は、2020年までに20種類に拡大される予定である。また、市民が档案馆の窓口を訪れ記録の閲覧を申し込む際は、専用のスマートフォン・アプリを使用して電子証明証を担当者に見せれば、担当者はオンライン認証を使用して手続きを処理できる。市民は紙の書類を提出する必要はなく、アーカイブズの利用に際しては「提出書類ゼロ」を実現するものである。統計によれば、上海にある全等級の総合档案馆では民生記録の照会を今年9月までに7万件以上受け付けており、これは毎年31.2%の増加にあたる。今年4月、ワンストップのウェブサイト経由で民生記録へアクセスするプロジェクトが、全国レベルの「長江デルタ地域において専用ウェブサイトから政府サービスにアクセスする試験的業務計画」に組み込まれた。この計画は同地域の26市で推進され、長江デルタ地域の民生記録に関する「地域内照会、档案馆共通証明書、档案馆とコミュニティーの連携、専用ウェブサイトからのアクセス」の段階的な実現を目指すものである。

(5) デジタルアーカイブズ（電子的な記録管理体制）の全国モデル構築の整備

近年、中国ではデジタルアーカイブズの構築を、アーカイブズ情報構築の重要な部分であると認識してきた。この理由から、「デジタルアーカイブズ構築に関する指針」が発表された。管理システムの機能要件に始まり、アプリケーション・システムの開発やサービス・プラットフォームの構築、ハードウェアとソフトウェアの配置からデジタルアーカイブズ資源の構築、そしてデジタルアーカイブズの構築の手順から保証にいたるまで、これらの側面について参照できるよう、かなり明確な方針と道筋が打ち出された。デジタルアーカイブズの構築を全等級の档案馆で推進するために、「全国モデルデジタルアーカイブズ」証明書も導入した。現在、省、市、及び県レベルの档案馆が証明書の審査を通過している。デジタルアーカイブズの構築を促進することで、電子記録の整理、移管・受入、長期保存などの業務の開発も推し進めてきた。昨今、流通形態、アーカイブズ資料の管理手段、ユーザー・エクスペリエンス、アーカイブズ資料の価値実現、及び整理実務における慣例の発信などの情報化によってもたらされた大きな変化について、より多くの档案馆が認識し始めており、档案馆の業務形態について、オープンであること、連携、及び共有などの観点から見直す動きが出ている。このため、情報構築が進んでいる一部の档案馆では、アーカイブズ資料のデジタル化及びデジタルアーカイブズの管理だけにとどまらず、档案馆業務の全ての分野、側面、手順における情報化を通して情報技術・資源に対する技術レベルでの支援の強化を図っている。これには、データ層の管理、業務レベルでのワークフローの再設計、サービス・レベルでの情報公開と共有などが含まれる。

3. 変化の時代におけるアーキビストの持続性

変化の時代にあって、我々は常に変化し続ける情報技術によって周囲に後れをとらないように迫られ、また生み出される膨大な量の電子データによって混乱している。仕事が機械に奪われてしまうことに対する危機感と新しいものに対する無力感から、アーキビストは不安を感じている。しかし、このような「変革」や「変化」に溢れた時代に生きる際に求められるのは、むしろ、本来の職務に徹し、アーカイブズの社会的役割を発展させ続け、そして専門職としてのアーキビストの職業的アイデンティティを強化し続けるための強い決意を持つことである。これに関して、中国国家档案局では一連の取組を近年行ってきた。

(1) 改革を通し、事業の整備に向けた推進力の創出

中国では昨年、地方の行政改革プロセスの中で、アーカイブズ業務体制も調整された。従来は、地方档案行政管理機構と地方総合档案馆は共同で業務を行っていた。改革後、これらの2つの部門は切り離された。档案行政管理機構はアーカイブズ資料管理を専門に扱い、档案馆は資料の保存と利用を専門に扱うものとされた。この改革により、管理部門の分離が実現された。档案馆内部での管理機能と公共サービスの運営との関係が根本的に整理され、档案馆が保存や利用な

どの中核の業務に集中しやすい環境が整備された。現在中国では、アーカイブズ資料の収集、保存、利用といった基本業務構築の強化に向けたさまざまな対策を実施し、デジタルアーカイブズ（電子的な記録管理体制）に対して最先端の戦略的管理を適用する取組を行っている。これには資源構築が含まれ、特にデジタルアーカイブズ資源における、より一層の強化と最適化が求められている。アーカイブズ管理の情報化プロセスの加速、アーカイブズ情報管理形態におけるイノベーション、及び資料管理の近代化の実現を必要としている。資料のセキュリティー面では、基本環境を改善させ、危機管理能力とセキュリティーコントロールを強化させるためには、機関のセキュリティーと情報のセキュリティーという2つの面で捉える必要がある。

（2） アーカイブズ業務の将来に向けての努力

中国では近年、档案馆の現在及び未来の社会的機能に関する定義を明確化してきた。これらには、愛国教育の基盤としての機能、アーカイブズ資料の安全な保存の基盤としての機能、及び利用、開示された政府情報へのアクセス、及び電子記録のバックアップ管理の中心的機関としての機能が含まれる。これらの5つの基本的な社会的機能は、档案馆の特質と機能に基づき、档案馆の現在の業務処理能力及び現在の社会的ニーズも加味して導き出されたものであり、档案馆の基本要件として長期にわたり適用できるものであると考えられる。5つの基本機能について、中国の档案馆ではまだ多くの取組が必要である。愛国心教育の基盤としての機能を十分に発揮させるためには、アーカイブズ資源を有効活用し、より多くの利用者を档案馆に呼び寄せ、利用者の学習と啓発を有意義なものにする必要がある。安全な保存の基盤としての档案馆の機能を十分に発揮させるためには、法律に従って適切な時期にアーカイブズ資料を収集し、あらゆる種類の資料が十分に収集されることに配慮し、整理、記述、保存などの作業を正確に実施し、収集され所蔵資料に組み込まれた資料を適切かつ安全に保存することなどが肝要である。利用のためのサービス・センターとしての機能を十分に発揮させるためには、資料の取得と利用に関するサービスをさらに改善させると同時に、公開を継続的に増やし、アーカイブズ資源の構築と共有を通して利用のサービスの利便性、迅速性、品質、及び効率を向上させることが重要である。政府情報へのアクセスの中心として機能を十分に発揮させるためには、「政府情報開示規制」を始めとする法規制を遵守し、政府機関により開示済みの情報を国民に提供することが必要である。電子記録のバックアップ管理センターとしての機能を十分に発揮させるためには、電子記録のバックアップ作業及び従来型の媒体のままのアーカイブズ資料のデジタル化を正しく実施し、所在地が異なる档案馆間でバックアップに対するサポートとサービスを提供することに重点を置く必要がある。

国際公文書館会議はヤーンズをアーカイブズ管理という専門分野の守護神としてみなしており、これには、過去に作られたアーカイブズ資料の原本を維持しつつ、現在及び将来の資料とな

る原本を未来の歴史研究のために提供することをアーキビストに促すという意味が込められている。社会はアーキビストに対して、過去と未来をつなげるような方向性の役割を担うことを主に期待している。この役割はまた、アーキビストという専門職の長期的な基盤も形成する。情報化時代の発達によりもたらされた歴史的な機会により、中国における経済的・社会的発展のあらゆる側面、また、多くの中国人の物質的生活及び精神生活において、档案馆の活動がかつてない程に深く関わるようになった。今後、档案馆が中国社会において占める重要な位置と役割がより鮮明となり、「法に基づく管理、公開、近代化」の目標を目指して档案馆の活動は新たな段階に進むものと考えられる。